

市長コラム

キャッチボール 第10球

ふるさとの誇り



2020年東京オリンピックの開催が決定しました。私たちは世界中の皆さんとの約束をしっかりと果たし、同時に日本の新たなスタートとなるよう努めなければなりません。被災地支援と復興を力強く推進し、世界各国から大勢の皆さんに安全で安心な日本を訪れていただき、「おもてなし」の心でお迎えしたいと思います。また、東京一極集中とならないように、地方振興についても強く訴えていくつもりです。



さて前回の東京オリンピックが開催された1964（昭和39）年は、夢の超特急ひかり号が開通した年でもあります。来年で開業50年となりますが、これまでほとんど事故もなく、安全な日本を象徴する乗り物となっています。

その建設を構想段階から指揮されたのが、第4代国鉄総裁の十河信二さんです。旧制西条中学校（現西条高校）のご出身で、第2代西条市長でもあります。「新幹線の生みの親」とも呼ばれていますが、当時多くの反対を押し切って、新幹線建設を推し進めてきました。卓越した先見性と信念の強さには、ただただ、脱帽するばかりです。

そして今、西条市では、ふるさとの偉人十河信二さんを顕彰する事業を行っています。すでにJR伊予西条駅前に四国鉄道文化館や十河信二記念館を整備し、初代0系新幹線などを展示しています。さらに来春オープンをめざして、鉄道文化館南館の建設を進めており、市民の皆さんや多くの鉄道ファンに足を運んでいただけるものと期待しています。

また、十河信二さんのご功績や生き方を広く伝えるため、西条高校ご出身の漫画家つだゆみさんに執筆を依頼していた「夢の超特急ひかり号が走った十河信二伝」（右写真）が先日出版されました。全国書店のほか、市役所窓口でも販売していますので、ぜひ多くの皆さんに手に取っていただきたいと思います。



当時行われた新幹線の名称募集では、59万通の中から「ひかり号」に決まったそうですが、応募作には「そごう号」もたくさんあったという逸話が残されています。

開業50年の節目となる来年は、「新幹線の生みの親」十河信二さん、そしてそのふるさと愛媛県や西条市が脚光を浴びる年になってほしいですね。合併10周年事業とともに、大いに盛り上げていきたいと思っています。

市政懇談会

～市長とキャッチボール～

市庁舎本館 広報広聴課広聴係 TEL0897-52-1243

市長との直接対話で意見交換

市民の皆さんの声を市政に反映させる取り組みの一環として「市政懇談会 市長とキャッチボール」を開催しています。9月から11月にかけて、西条市連合自治会の4つの支部ごとに実施しており、市長はじめ市幹部職員が、参加される自治会の皆さんと直接意見を交わして、さまざまな課題について話し合います。

9月26日に西条支部、10月1日に丹原支部、10月22日には小松支部が開催しました（東予支部は11月12日（火）を予定）。

参加者からは防災や地域活性化など市政に関する意見や提案が出され、活発な意見交換が行われました。

4支部の開催後、来年1月以降は、対話の機会を充実させるために、各公民館単位で自由に意見交換でき

る懇談会を実施する予定ですので、皆さん、ぜひご参加ください。

